

原著論文

# 昔話と近現代曲を利用したオリジナルミュージカル制作の実施と その学習効果に関する研究

—幼稚園教育要領のねらいを具現した表現教育の実践—

永田 雅彦<sup>a</sup>, 記谷 康之<sup>b</sup>

Creating Musicals Using Old Tales and Modern Music and its Effects on Learning:  
Realizing the Aim of *Course of Study for Kindergarten*  
Through the Practice of Expression Education

Masahiko NAGATA<sup>a</sup>, Yasuyuki KITANI<sup>b</sup>

## Abstract

This study aims at investigating educational effects resulting from creating and performing original musicals. The class consists of three processes: (1) Students create new musicals by themselves, (2) they learn new musical expressions for nursery school education through the creative experience, and (3) they enhance communicative skills to cooperate with one another. Paying attention to the changes in (1) students' motives for learning, (2) their production of musical ideas based on their specialty, and (3) applicability to real nursery school situations, this study continued for some years with different students. The results show that this method is effective, and that it realizes a practice of new expression education suggested in *Course of Study for Kindergarten*.

Keywords: musical expressions, Course of Study for Kindergarten, musicals, music instruction, nursery teacher training

## はじめに

平成29年告示、幼稚園教育要領の第2章 ねらい及び内容の表現には、「感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する

力を養い、創造性を豊かにする。」<sup>1)</sup>とある。3 内容の取扱いには「(1) 豊かな感性は、自然などの身近な環境と十分にかかわる中で美しいもの、優れたもの、心を動かす出来事などに会い、そこから得た感動を他の幼児や教師と共有し、様々に表現することなどを通して養われるようにすること。」<sup>1)</sup>とある。また、幼稚園教育要領解説の第2章、5 感性と表現に関する領域「表現」では、「豊かな感性や自己を表現する意欲は、幼児期に自然や人々など身近な環境と関わる中で、自分の感情や体験を自分なりに表現する充実感を味わうことによって育てられる。したがって、幼稚園においては、日常生活の中で出会う様々な事物や事象、文化から感じ取るものやそのときの気持ちを友達や教師と共有し、表現し合うことを通して、豊かな感性を養うようにすることが大切である。また、そのような心の動きを、やがては、それぞれの素材や表現の手段の特性を生かした方法で表現できるようにすること、あるいは、それらの素材や方法を工夫して活用することができるようにすること、自分の好きな表現の方法を見付け出すことができるようにすることが大切である。また、自分の気持ちを一番適切に表現する方法を選ぶことができるように、様々な表現の素材や方法を体験させることも大切である。」<sup>2)</sup> (下線は筆者)と説明している。

一方、2005年の中央教育審議会答申「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について —子どもの最善の利益のために幼児教育を考える—」では、「今後の幼児教育がより一層、総合的かつ専門的なものになる中で、豊富な経験年数を有する教員等も含め、現在の教員等の資質や専門性では十分に対応できるのか懸念される面もある。」<sup>3)</sup>と問題が提起され、同第2章第1節第3項の幼稚園教員の資

<sup>a</sup>安田女子短期大学保育科

<sup>b</sup>福山大学大学教育センター・IR室

質及び専門性の向上 (1) 幼稚園教員の養成・採用・研修等の改善では、「教員志望者自身が多様な知識や豊かな体験を得ること…」<sup>3)</sup>としており、また、2002年の幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議報告においても「多様な体験を基礎としながら、特技や自らの関心事項を深めることも、将来、教員として得意分野を育成していく素地を形成し、本格的な得意分野の育成に努める現職段階への円滑な移行を図るという観点から、適当と考えられる。」<sup>4)</sup>と、現役保育者の資質と専門性に対する懸念や、理論と実践とを結び付ける養成教育の模索、新任教員や若手教員の幼児理解や保育に必要な基本的知識及び技能の獲得の必要性が言及されてきた。

安田女子短期大学保育科では、教員として専門的知識や技能をもって幼児に豊かな感性を養うように支援し、また幼児が様々な方法で表現することができるように学生を育成することをねらいとして、「卒業研究Ⅰ・Ⅱ」を2年次前期と後期にそれぞれ30時間1単位で卒業必修科目として開講している。筆者(永田)は、保育内容表現a(以下、永田ゼミ)を担当している。学生の主体性を尊重し、研究初期より、学生自身により表現指導の研究を計画し実践することを求め、卒業研究とその発表での高い満足感の獲得を目標としている。

### 研究の目的

本研究は、オリジナルミュージカルの制作と実演の学習が与える効果についての研究である。2018年度より継続しており、各年度で永田ゼミに在籍する学生の授業実践の振り返りを分析し、結果を公表している<sup>5)</sup>・7)。

2018年に開始した本研究は、①学生独自で新たな音楽劇を制作する、②その経験を通して保育における新しい音楽表現の方法を学ぶ、同時に、③協働のためのコミュニケーション能力の育成を目指す、という3点を研究内容の柱に実践してきた。この学習過程において、「学習に対するモチベーション」、「専門性に基づく音楽的アイデアの創出」、「保育現場での有用性の認知」の変化について着目し、本実践の有用性を示すことを目的としている。また、本研究が幼稚園教育要領に照らし、その意図を汲み取った新しい教育実践の具現であることを明らかにする。

### 研究対象及び方法

#### 1. 対象

本研究は、永田ゼミ(保育内容表現a)の受講者、2021年度入学生(2年次生)20名を対象とした。

#### 2. 方法

Google for EducationのGoogle Formにより振り返りの質問を作成し、Web上で無記名により回答を求めた。実践の振り返りは、2022年4月の研究開始時点(以下、開始時)、2022年10月の研究中間時点(以下、中間時)、2022年12月の卒業研究発表終了時点(以下、終了時)の3期に分けて行い、加えて最後の授業において、実践の総括を「1.オリジナルミュージカルの制作で見出したあなたの音楽表現のアイデアは何ですか」、「2.オリジナルミュージカルの制作であなたが「悩んだ」・「苦勞した」ことは何でしたか」、「3.オリジナルミュージカルを制作した学習経験から、幼児の保育についてどのような指導のアイデアができましたか」の3つの設問で問い、自由記述により回答させた。回答することについては、成績・評価で不利益はないこと、個人名が公表されることはないこと、回答を途中でやめることができること、回答は任意であることを口頭及び書面で説明し、結果を学術論文で公表することについて同意を書面で得た。回収率は3期全てで100%であった。

### 質問の内容と結果

振り返りは、A群(学習に対するモチベーションに関する質問項目)、B群(専門性に基づく音楽的アイデアの創出に関する質問項目)、C群(保育現場での有用性の認知に関する質問項目)で構成している。設問は、質問の流れを重視し必ずしも群として分けていない。

質問は、4件法で問うているもの(総設問数75中47問)、選択肢を提示し回答させるもの(同12問)、選択肢とそれに係る自由記述を求めるもの(同14問)、自由記述単独のもの(同5問)の4種に分かれている。また、開始時の設問17と18、及び中間時の設問25と26は同じ質問であり、中間時の設問4と5、及び終了時の設問2と3も同様である。表1、2、3に設問と選択肢の回答結果を示す。

研究開始時							
否定的回答 ← 1…全くそう思わない(全く当てはまらない等) 2…思わない(当てはまらない等) 3…そう思う(当てはまる等) 4…とてもそう思う(とても当てはまる等) → 肯定的回答							
設問	1	2	3	4			
1.ゼミの学習に期待していますか	0	0	9	11			
2.ゼミの学習に積極的に参加しようと思えますか	0	0	5	15			
3.このゼミに参加することになってよかったと思えますか	0	0	11	9			
4.何故このゼミを希望しましたが、次の項目の中から当てはまると思うものを選択してください(複数選択可)	入学前からの希望	先輩の演技を見て	表現の3グループのうちどれかに入りたかった	どのゼミでもよかった	仕方なく	その他	
	1	15	10	0	0	7	
5.質問4で「その他」にチェックをした方は、その内容を具体的に記述してください	自由記述						
6.ゼミの学習は、あなたにとってどのようなものですか	その他	全く期待していない(めんどうくさい、義務で参加する等)	期待していない(参加することには意義がある等)	期待している(他の学習よりは優先したい等)	大々期待している(学生生活の重要事項である等)		
	0	0	0	7	13		
7.質問6で「その他」を選んだ方は、その内容を具体的に記述してください	自由記述						
8.ミュージカルを演じることに不安はありませんか	0	1	14	15			
9.保育者にとって、ミュージカル制作に取り組む経験は大切だと思いますか	0	3	11	6			
10.どんな作品または舞台にしたいという具体的なイメージはありますか	2	7	10	1			
11.保育者の専門性の習得という観点から、なぜ歌唱表現aゼミ(永田ゼミ)を選択しましたか、考えを短くまとめて記述してください	自由記述						
12.既成の子どものミュージカル作品を演じようとは思いませんでしたか	4	10	4	2			
13.この学習でどのようなことを学びたいですか、次の項目で当てはまるものを選択してください(複数選択可)	歌唱表現力を上げたい	ミュージカル制作の新しいアイデアを習得したい	ミュージカルを作り上げる、または指導できる力をつけたい	シナリオを作る方法を理解し学びたい	保育現場に新しい劇遊びのアイデアを提案する学習や経験をしたい	他者と協同してミュージカルを作り上げる能力を身に磨きたい	その他
	14	11	8	5	11	15	0
14.質問13で「その他」にチェックをした方は、その内容を具体的に記述してください	自由記述						
15.この学習で具体的な仕事の内容(保育現場における劇や音楽表現の指導など)をイメージできるようになると思えますか	0	3	14	3			
16.この学習の経験は、保育現場で役立つと思えますか	0	2	8	10			
17.保育をするうえで、歌うことが必要だと思いますか	0	0	4	16			
18.質問17について、なぜ歌うことが必要だと思いますか、考えを短くまとめて記述してください	自由記述						

表1 質問内容と回答結果(研究開始時)

研究中間時										
否定的回答 ← 1…全くそう思わない(全く当てはまらない等) 2…思わない(当てはまらない等) 3…そう思う(当てはまる等) 4…とてもそう思う(とても当てはまる等) → 肯定的回答										
設問	1		2		3		4			
1.ゼミの学習に期待していますか	0		0		6		14			
2.現時点で、ゼミの学習に積極的に参加しようと思えますか	0		0		6		14			
3.現時点で、ゼミの学習に取り組んで、楽しいですか	0		2		3		15			
4.このゼミに参加してよかったですか	0		0		7		13			
5.質問4について、それは何故ですか、具体的に記述してください	自由記述									
6.ゼミの学習は、やりがいを感じますか	0		0		7		13			
7.この学習で、特にやりがいを感じ始めたのはいつ頃ですか、当てはまると思う月を選択してください(複数選択可)	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月			
	1	1	0	3	4	9	15			
8.現在、ゼミの活動は順調だと思いますか	4		10		5		1			
9.現時点で、ゼミの学習について、何が難しい、または辛いと感じますか、次の項目の中から当てはまると思うものを選択してください(複数選択可)	人間関係	話し合い	なかなか進まないこと	音楽的な表現力の不足	完成のイメージがでない	卒業発表発表会に間に合うかどうか不安	求めている完成度の高さ	観客の期待	理想のイメージとの乖離	その他
	4	5	16	6	16	16	10	12	10	1
10.質問9で「その他」にチェックをした方は、その内容を具体的に記述してください	自由記述									
11.ゼミの学習は、あなたにとってどのようなものですか	0		0		5		15			
12.ミュージカルを演じることに不安はありますか	0		0		14		6			
13.保育者になる者として、ミュージカル制作に取り組む経験は大切だと思いますか	0		0		12		8			
14.現時点で、どのような作品、または舞台になるかイメージはできますか	4		10		5		1			
15.保育者の専門性の観点から、現時点でこのゼミに参加する意義や目的ははっきりとしていますか	0		4		12		4			
16.ゼミの学習を開始して6か月が過ぎましたが、現時点で作品を作り上げるイメージができますか	2		14		3		1			
17.作品の現在の完成度は、何%ぐらいだと思いますか	20%以下		30%程度		50%程度		80%以上			
	6		11		3		0			
18.どんなミュージカル作品を作りたいですか、具体的に記述してください	自由記述									
19.現時点で、歌唱表現力がついていると思いますか	0		4		15		1			
20.現時点で、学習の成果が出ていると思いますか	2		5		12		1			
21.現時点で考える「あなたの学習の目標」は何ですか、当てはまると思う項目を選択してください(複数選択可)	歌唱表現力をつける	ミュージカル制作の新しいアイデアを習得する	ミュージカルを作り上げる、または指導できる技能を習得する	シナリオを作る方法を理解し習得する	保育現場に新しい創造のアイデアを提案する学習や経験をする	他者と協同してミュージカルを作り上げる能力を習得する	その他			
	9	12	11	8	9	17	0			
22.質問21で「その他」にチェックをした方は、その内容を具体的に記述してください	自由記述									
23.現時点で、この学習によって具体的な仕事の内容(保育現場における劇や音楽表現の指導など)をイメージできるようになっていると思いますか	1		4		14		1			
24.この学習の経験は、保育現場で役立つと思いますか	0		1		7		12			
25.保育をするうえで、歌うことが必要だと思いますか	0		0		8		12			
26.質問25について、なぜ必要だと思いますか、具体的に記述してください	自由記述									
27.現時点で、ミュージカルのオリジナル作品を作る目的ははっきりとしていますか	0		3		14		3			
28.ゼミの学習に取り組んで、現時点で他者とのコミュニケーション能力がついていると思いますか	0		2		8		10			

表2 質問内容と回答結果(研究中間時)

研究終了時											
否定的回答 ← 1…全くそう思わない(全く当てはまらない等) 2…思わない(当てはまらない等) 3…そう思う(当てはまる等) 4…とてもそう思う(とても当てはまる等) → 肯定的回答											
設問	1		2		3		4				
1.ゼミの学習に取り組んで、楽しかったですか	0		0		1		19				
2.このゼミに参加してよかったですか	0		0		1		19				
3.質問2について、それは何故ですか、具体的に記述してください	自由記述										
4.ゼミの学習は、あなたにとってどのようなものでしたか	0		0		3		17				
5.質問4について、それは何故ですか、具体的に記述してください	自由記述										
6.前期終了時と比べてゼミの学習に関する話題を授業時間外に探すようになりましたか	0		1		3		16				
7.前期終了時と比べてゼミの学習に関する話題でメンバーと会話することが以前より増えましたか	0		0		1		19				
8.ゼミの学習は、やりがいがありましたか	0		0		0		20				
9.特にやりがいを感じ始めたのはいつ頃ですか、当てはまると思う月を1つだけ選択してください	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
	1	0	0	0	2	4	6	15	9		
10.ゼミの活動は順調だったと思いますか	0		3		12		5				
11.ゼミの学習で一番辛かった月はいつでしたか	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
	0	0	0	0	1	2	7	19	4		
12.ゼミの学習について、何が難しかったですか、または辛く感じましたか、次の項目の中から当てはまると思うものを選択してください(複数選択可)	人間関係	話し合い	なかなか進まなかったこと	音楽的な表現力の不足	完成のイメージがでなかったこと	卒業発表会に間に合うかどうか不安だったこと	求めている完成度の高さ	観客の期待の大きさ	理想のイメージとの乖離	その他	
	4	5	17	6	13	18	14	15	7	0	
13.質問12で「その他」にチェックをした方は、その内容を具体的に記述してください	自由記述										
14.卒業研究発表会を終えて、イメージしていた作品を作ることができたと思いますか	0		0		1		19				
15.作品の完成度は、あなたの理想と比べて何%ぐらいになりましたか	20%以下		30%程度		50%程度		80%以上		その他		
	0		0		0		17		3		
16.質問15で「その他」にチェックをした方は、具体的に何%ですか、またその理由を具体的に記述してください	自由記述										
17.卒業研究発表会を終えて、あなたは満足しましたか	0		0		0		20				
18.保育者になる者として、ミュージカル制作に取り組む経験は大切だと思いますか	0		0		6		14				
19.卒業研究で、既成のこどものミュージカル作品を使わず、オリジナルの作品制作に取り組んだことは、意義があったと思いますか	0		0		2		18				
20.質問19について、それは何故ですか、次の項目の中で当てはまると思うものを選択してください(複数選択可)	ミュージカル制作の新しいアイデアを生み出す学習と経験ができた	オリジナル(既成作品ではない)ミュージカルを作り上げる、または指導できる能力がついた	音楽表現のアイデアが習得できた	ゼロからシナリオを作る方法が理解できた	保育現場に新しい劇遊びのアイデアを提案する具体的な学習や経験ができた	その他					
	18	9	14	8	12	0					
21.質問20で「その他」にチェックをした方は、その内容を具体的に記述してください	自由記述										
22.保育者の専門性の観点から、この卒業研究の意義や目的がはっきりとしましたか	0		0		9		11				
23.「あなたの学習の目標」が達成できたと思う点について、当てはまると思う項目を選択してください(複数選択可)	歌唱表現力がついた	ミュージカル制作の新しいアイデアが習得できた	ミュージカルを作り上げる、または指導できる技能が習得できた	シナリオを作る方法を理解し習得した	保育現場に新しい劇遊びのアイデアを提案する学習や経験ができた	他者と協同してミュージカルを作り上げる能力が習得できた	その他				
	12	10	8	7	12	18	0				
24.質問23で「その他」にチェックをした方は、その内容を具体的に記述してください	自由記述										
25.卒業研究発表会を終えて、歌唱表現力がついたと思いますか	0		0		10		10				
26.身に付けた歌唱表現力について、保育現場での表現や指導に役立つと思いますか	0		0		6		14				
27.ゼミの学習によって具体的な仕事の内容(保育現場における劇や音楽表現の指導など)をイメージできるようになったと思いますか	0		0		14		6				
28.ゼミの学習に取り組んで、他者とのコミュニケーション能力がついたと思いますか	0		0		4		16				
29.総合的に見て、ゼミの学習の経験は保育現場で役立つと思いますか	0		0		1		19				

表3 質問内容と回答結果(研究終了時)

### 1. 3期を比較する設問について

4件法で問うている項目の内、3期に共通の設問は次の5項目である。

#### 1) 「このゼミに参加することになってよかったと思うか」について (図1)

設問の選択肢を順位に変換して比較したところ、平均順位は開始時が1.65、中間時が1.95、終了時が2.40であった。この設問について差異を比較するため、開始時、中間時、終了時の3つの回答時点を要因とするフリードマン検定を行ったところ  $\chi^2=11.692$ ,  $df=2$ ,  $p=.003$  となり有意な差異が認められた。Holmの方法による多重比較を行ったところ、開始時と終了時の間で有意差が認められた ( $p=.018$ )。開始時から終了時にかけて肯定的評価が増加している。

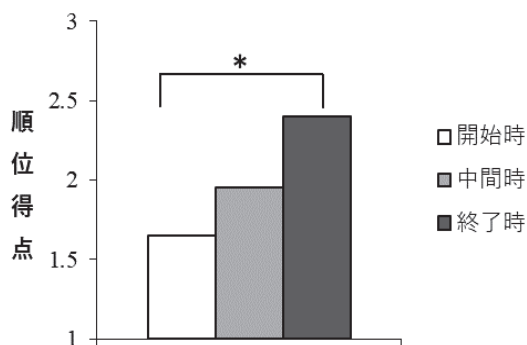


図1 ゼミへの満足度と学修時期との関係

#### 2) 「ゼミの学習は、あなたにとってどのようなものか」について (図2)

平均順位は開始時が1.85、中間時が2.00、終了時が2.15であった。回答時点を要因とするフリードマン検定を行ったところ有意な差異は認められなかった。3期全てで肯定的な評価が続き、ゼミに対する期待は常に高かった。

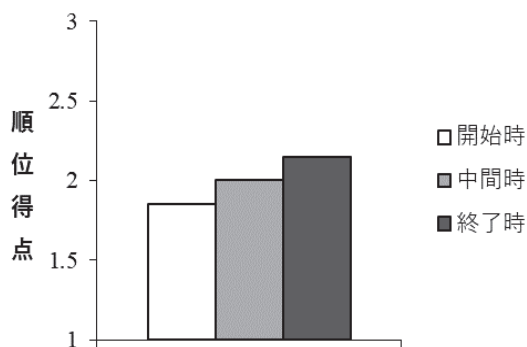


図2 ゼミの学習の重要度と学修時期との関係

#### 3) 「保育者にとって、ミュージカル制作に取り組む経験は大切だと思うか」について (図3)

平均順位は開始時が1.63、中間時が1.98、終了時が2.40であった。この設問について差異を比較するため、回答時点を要因とするフリードマン検定を行ったところ  $\chi^2=13.027$ ,  $df=2$ ,  $p=.001$  となり有意な差異が認められた。Holmの方法による多重比較を行ったところ、開始時と終了時の間で有意差が認められた ( $p=.014$ )。3期全てで肯定的な評価が続き、経験の必要性について肯定した評価をしている。

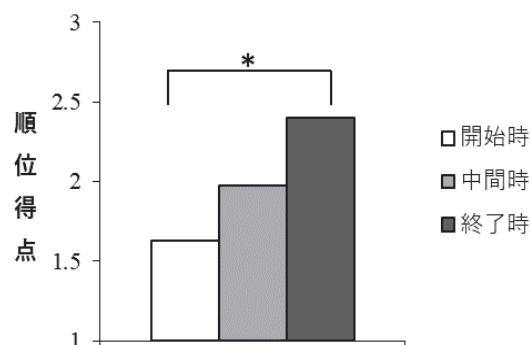


図3 ミュージカルの学習の必要性と学修時期との関係

#### 4) 「この学習で具体的な仕事の内容（保育現場における劇や音楽表現の指導など）をイメージできるようになると思うか」について (図4)

平均順位は開始時が1.95、中間時が1.68、終了時が2.38であった。この設問について差異を比較するため、回答時点を要因とするフリードマン検定を行ったところ  $\chi^2=10.757$ ,  $df=2$ ,  $p=.005$  となり有意な差異が認められた。Holmの方法による多重比較を行ったところ、中間時と終了時の間で有意差が認められた ( $p=.027$ )。これは、研究発表に対する不安感についての中間時の回答結果 (設問12)、及び終了時の達成感の感得についての回答結果 (設問14、15、17) とも一致し、研究が進んだ中間時に困難さを実感していたことが推察される。



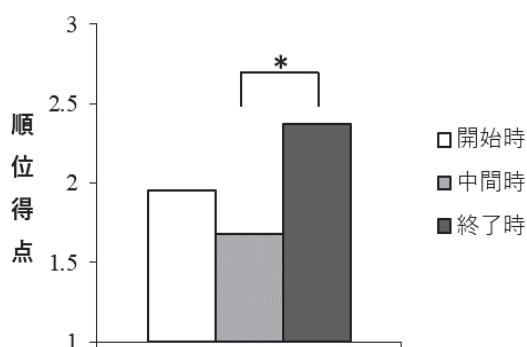


図4 学習内容からイメージできる仕事内容と学修時期との関係

5) 「この学習の経験は、保育現場で役立つと思うか」について (図5)

平均順位は開始時が1.68、中間時が1.88、終了時が2.45であった。この設問について差異を比較するため、回答時点を要因とするフリードマン検定を行ったところ  $\chi^2=15.235$ ,  $df=2$ ,  $p<.001$  となり有意な差異が認められた。Holmの方法による多重比較を行ったところ、開始時と終了時の間で有意差が認められた ( $p=.014$ )。この学習経験の有益性は、開始時に比べ終了時に、よりポジティブに評価している。

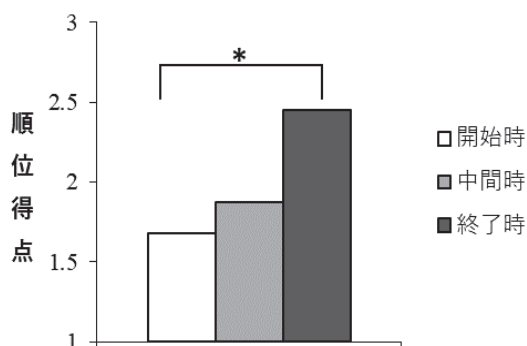


図5 学習経験の有益性と学修時期との関係

2. 他の設問について

振り返りの以下の質問については、設問の各選択肢の回答数を、回答した全ての学生の数で除した割合を求め分析を行った。

振り返りの質問のA群 (学習に対するモチベーションに関する質問項目) について、「ゼミの学習に期待しているか」の問いに対し、45%が開始時に「そう思う」と回答し、中間時には30%と減少した。「とてもそう思う」と評価した学生は、開始時の55%から中間時には70%と増加した。また「ゼミに参加することになってよかったと思うか」の問いに対し、「そう思う」と回答した学生は開始時の55%から中間時には35%に

減少し、「とてもそう思う」と回答した学生は開始時には45%であったものが、中間時には65%に増加している。開始時から全ての学生が肯定的に評価し、学習が進むにつれて評価が高まっている。一方「ミュージカルを演じることに不安はあるか」の問いに対し、開始時は「そう思う」が70%、「とてもそう思う」が25%であり、中間時はそれぞれ70%と30%となり学習が進んでも強い不安を持っていたことが推察できる。また中間時の「ゼミの活動は順調か」の問いに対し、70%の学生が否定的に評価していた。しかし、中間時に問うた「やりがいを感じ始めたのはいつか」では、9月が45%、10月が75%と答えており、やりがいを感じるが順調とは言えないと評価していたことは興味深い。「どんな作品または舞台になるかイメージはあるか」の問いに対し、開始時は否定的回答が45%、肯定的回答が55%であったものが、中間時には否定的回答が70%、肯定的回答が30%を示し、終了時の「この学習について何が難しかったか、辛いと感じたか (複数選択による回答)」の質問では、「なかなか進まなかったこと (85%)」「完成のイメージができなかったこと (65%)」「卒業研究発表会に間に合うかどうか不安だったこと (90%)」「求めている完成度の高さ (70%)」「観客の期待の大きさ (75%)」「理想のイメージとの乖離 (35%)」となり、他者の期待や本番に間に合うかどうかの不安に苛まれながらも、完成度の高さを追求して終盤まで課題と向き合っていたことが推察できる。

B群 (専門性に基づく音楽的アイデアの創出に関する質問項目) においては、「保育者にとって、ミュージカル制作に取り組む経験は大切だと思うか」との問いに対し、開始時には全体の55%が「そう思う」、30%が「とてもそう思う」と回答し、中間時にはそれぞれ60%と40%、終了時にはそれぞれ30%と70%と亢進している。

「あなたの学習の目標」は何か」との問いに対して、「歌唱表現力をつける (開始時70%→中間時45%→終了時60%)」、「ミュージカル制作の新しいアイデアを獲得する (55%→60%→50%)」「ミュージカルを作り上げる、または指導できる力をつける (40%→55%→40%)」「シナリオ作成の方法と理解 (25%→40%→35%)」「保育現場に新しい劇遊びのアイデアの提案 (55%→45%→60%)」と評価し、「歌唱表現力をつける」と「保育現場に新しい劇遊びのアイデアの提案」について終了時に亢進したことがわかる。

一方、「既成の子どものミュージカル作品を演じようとは思わなかったか」の質問に対して、開始時は70%の学生がネガティブな回答 (演じようとは思わない) をしており、終了時の「卒業研究で、既成の子ど

ものミュージカル作品を使わず、オリジナルの作品制作に取り組んだことは、意義があったと思うか」との質問に対し、10%の学生が「意義があった」とし、90%の学生が「とても意義があった」と回答したことは矛盾が無く、学習の目標とその達成が一致している。

C群（保育現場での有用性の認知に関する質問項目）では、「この学習で具体的な仕事の内容（保育現場における劇や音楽表現の指導など）をイメージできるようになると思うか」と「この学習の経験は、保育現場で役立つと思うか」の3期を比較する質問の回答が、どれも有意差がありかつ肯定する評価となっている点で、この取り組みが有益であると評価している。

### 3. 実践の総括についての質問と分析結果

この実践において、最後の授業に、実践の総括を3つの設問について自由記述により回答させた。回答は計量テキスト分析の手法（樋口2020）<sup>8)</sup>により、計

量テキスト分析ツールKHCoder 3Beta.07bを使い、回答にあらわれる出現頻度の高い語について相互の関係性を共起ネットワークで示した。図では出現頻度の高い語ほど大きい円で表している。

1) 「オリジナルミュージカルの制作で見出したあなたの音楽表現のアイデアは何か」について（図6）

関係性の強い4つのグループ（点線部分）があるもののゆるやかに全体が1つのまとまりを示している。出現頻度の高い語に「セリフ」「歌詞」「音楽」「曲」「場面」がある。この語を含む回答には「劇中に使われた曲をそのままの歌詞を使うだけでなく、歌詞を劇のセリフや少女の心情に合わせて編曲した」や「人の心情や本当の心の中を表現するために音楽を用いることでセリフでは表現できないものを表現できる」があり、オリジナリティや専門性を志向したアイデアの創出を求めていることが推察される。

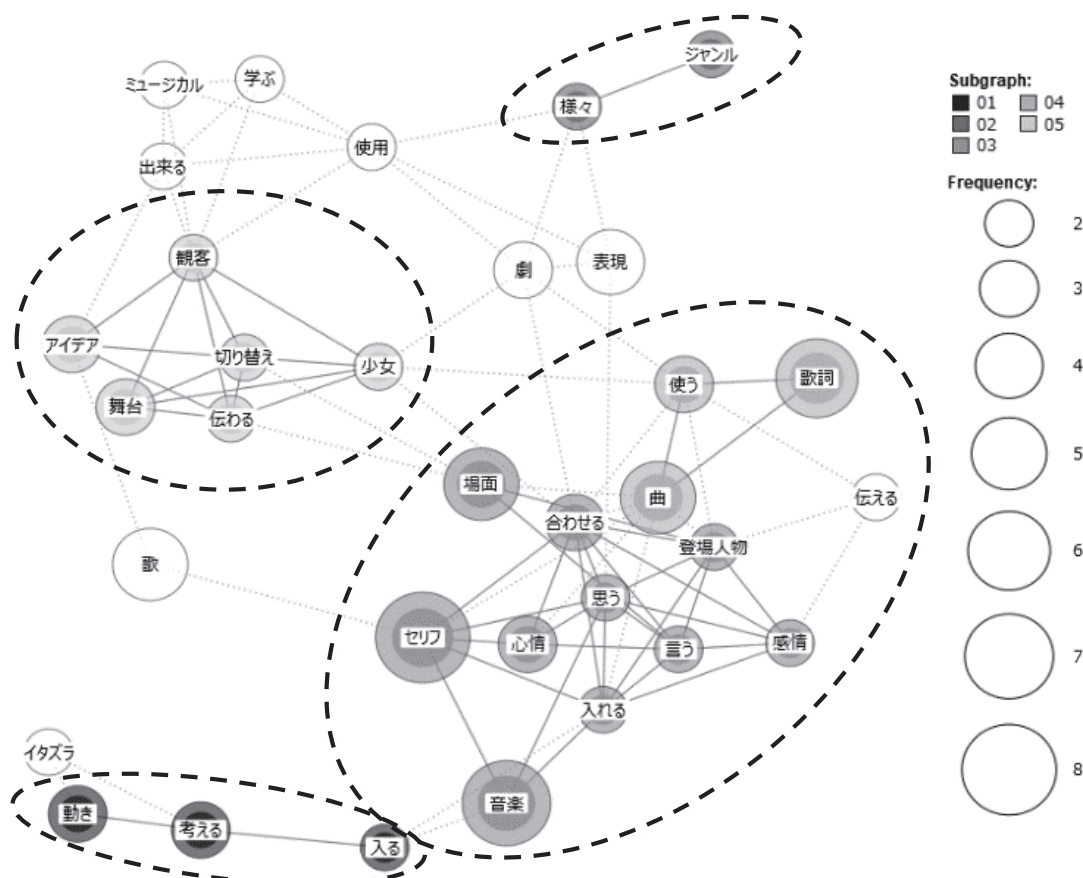


図6 ミュージカル制作で見出した音楽表現のアイデアを示した回答による共起ネットワーク



2) 「オリジナルミュージカルの制作であなたが「悩んだ」・「苦労した」ことは何か」について (図7)

9つのグループに明確に分かれてまとまりを示した。出現頻度の高い語に「伝える」「観客」「考える」「意見」「違う」「思う」「出し合う」がある。この語を含む回答には「観客に自分たちの伝えたいことがなかなか伝わらず苦労した」や「みんなで出した意見をやってみても何が違う」があり、自分たちで成しとげようとする過程でアイデアが意図どおりにならないこと、協働の難しさを感じていると推察した。

3) 「オリジナルミュージカルを制作した学習経験から、幼児の保育についてどのような指導のアイデアができたか」について (図8)

関係性の強い10のグループ (点線部分) がありなが

ら、4つのグループがゆるやかに1つのまとまり (実線部分) を示している。出現頻度の高い語に「子どもたち」「人」「意見」「歌う」「役」「感じる」がある。この語を含む回答には「子どもたち同士でしっかりと話し合うことを大切にする」や「登場人物の心情に合わせて歌を歌う」、「意図を持った動きをすることで個性やその人らしさを感じる」があり、幼児の主体性を導くことや表現の豊かさを引き出す支援について意識していることが推察される。また出現頻度は必ずしも高くないが多くの語と関係を持つ語として「分担」「全員」「大きい」がある。この語を含む回答には「(役割を) 自分で選んで分担し作業することで得意が発揮できる」、「全身を大きく使うことやステージ全体を大きく使うことを教える」があり、高い水準の音楽表現をめざし専門性を発揮しようとしたと考えられる。

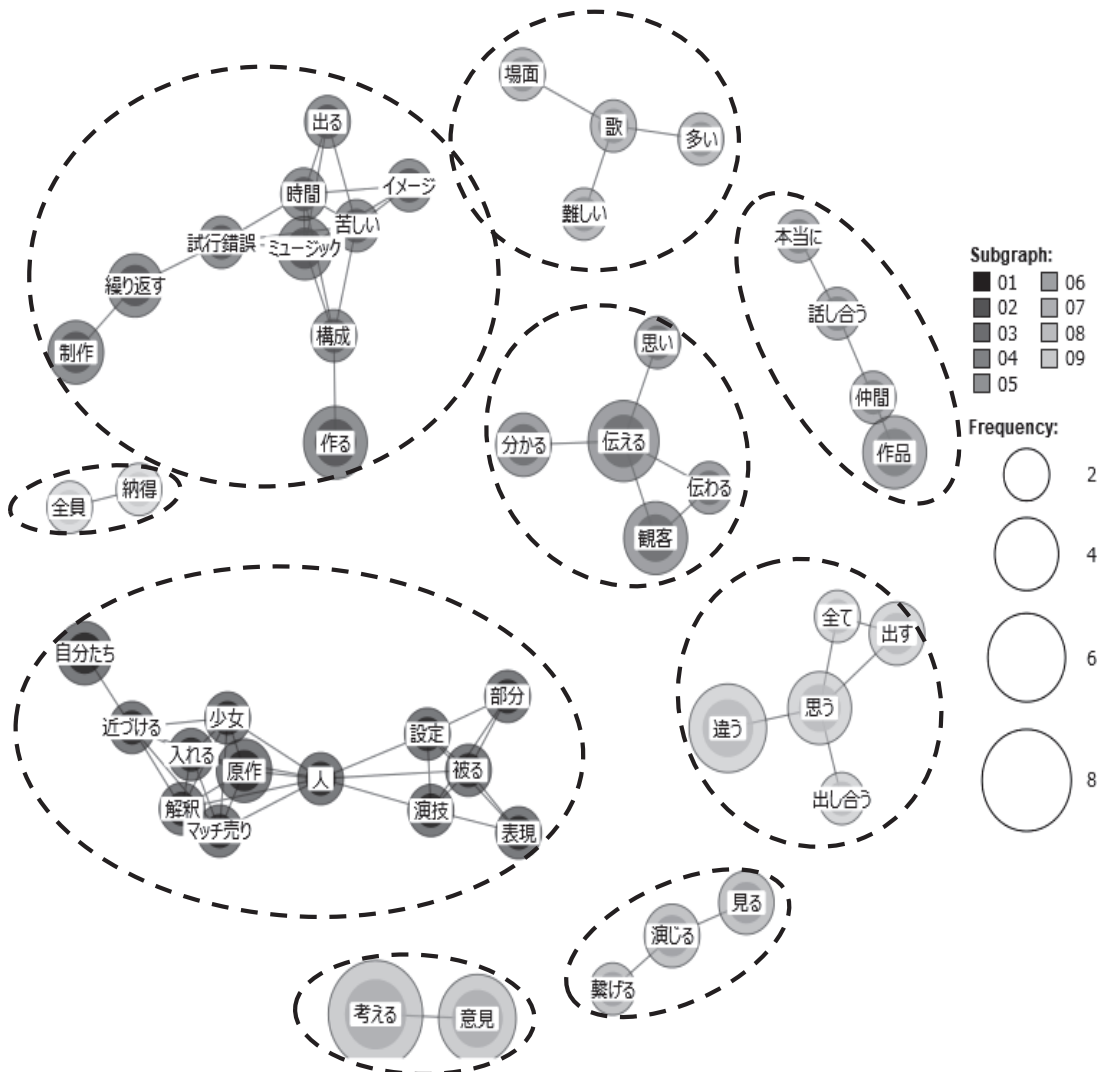


図7 ミュージカル制作での「悩み」「苦労したこと」への回答による共起ネットワーク



## 引用文献

1. 文部科学省(2018)「幼稚園教育要領 (平成29年告示)」
2. 文部科学省(2018)「幼稚園教育要領解説」pp.233-234
3. 文部科学省：中央教育審議会「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について (答申)」平成17年1月28日
4. 文部科学省：幼稚園教員の資質向上に関する調査研究協力者会議「幼稚園教員の資質向上について－自ら学ぶ幼稚園教員のために (報告)」平成14年6月24日
5. 永田雅彦：「昔話と近現代曲を利用したオリジナルミュージカル制作の実施とその学習効果に関する研究－第1報 研究の実施概要及びアンケート結果の分析と考察－」児童教育研究 第28号 安田女子大学児童教育学会 pp.27-34 2019年3月
6. 永田雅彦：「昔話と近現代曲を利用したオリジナルミュージカル制作の実施とその学習効果に関する研究－第2報 アンケート結果の質的分析と考察－」児童教育研究 第29号 安田女子大学児童教育学会 pp.69-77 2020年3月
7. 永田雅彦・記谷康之：「昔話と近現代曲を利用したオリジナルミュージカル制作の実施とその学習効果に関する研究－第3報 アンケート結果における2ヶ年の比較分析と考察－」児童教育研究 No.30 児童教育学会 pp.37-44 2021年2月
8. 樋口耕一：「社会調査のための計量テキスト分析－内容分析の継承と発展を目指して－ 第2版」ナカニシヤ出版 2020年

[2023. 4. 13 受理]

コントリビューター：青木 克仁 教授  
(公共経営学科)

